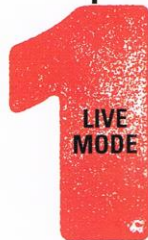


機能ガイド



ライブモード

ライブモードは、「スマートテニスセンサー」が1球ごとのショットの内容を捉え、Bluetoothでデータを転送してリアルタイムで情報を確認できる機能。受信したスマホからは「ピコーン」という電子音が鳴り、データ収集している臨場感はいやが上にも高まる！

サーブのスピード競争をすれば盛り上がるし、消費カロリーも表示されるので、フィットネス効果もすぐに見ることができる。



1球1球の「生データ」をその場で見るができるライブモード

インパクト位置

面のどこで打ったのかを、振動センサーにより一球一球推定。ヒートマップでその傾向を認識できる。結果をフィードバックすることにより、スレが修正されてジャストミート率も向上するはずだ。

スイング種別

フォアハンド、バックハンドといったショットの種別や、スピン、スライスといった球種の判別が行なえる。もちろん左利き用にも設定可能。

ボール回転

プラスがスピン、マイナスがスライスで示される21段階の細かさでボール回転をリポート。0をフラットとし、-10から+10の値で回転量を把握できる。



タグボタン

ショット数

練習の最もベースとなる課題がショット数。案外球数をこなせていないというケースが少なくない。目標設定やノルマの指標として役立てよう。

スイング速度

今まで知ることのできなかった自分のスイング速度を、数値として可視化。「案外速い?」「案外遅い?」。興味深い項目のひとつだ。

ボール速度

インパクト位置と打球衝撃の強さから、ボール速度を推定。「自分の球速がどれくらいか?」は、一般プレーヤーにとって最大の関心事だろう。

神谷コーチはこう使う!

バッテリーのもちちは?

ライブモードで約90分のデータを収集できる。プレーをしていない時はスリープモードに入り、消費電力が抑えられる。Bluetoothを切ってセンサー内にデータを蓄積させるメモリーモードなら約3時間の連続使用が可能。

タグって?

練習メニューの変わり目や、試合でのセットの切り替わり時などに入れておくと、情報を取り出しやすくなる「しおり」。後からデータを検索する時に何かと便利な機能だ。

テニスをもっと楽しめるように!

カリスマコーチとして知られる神谷勝則氏に、使い方、使い道について様々な角度から検討してもらった。

「例えば力を入れてスイングしてもボールが飛ばない場合、プレーヤーは、振り回す方向で何とかしようしがちです。しかしこれは、よく陥る落とし穴。感覚的には逆の印象かもしれませんが、ゆっくりなスイングでロスなくエネルギーをボ-

ールに伝えるようにした方が、ボール速度は上げやすい。少なくともスイング速度を大きく超えるボール速度が実現可能です。

そうした客観的なデータを数値として可視化できるのがライブモード機能の特徴。力を抜いてもしっかりボールを飛ばせることがわかると、「こんなに楽でいいのか!」と驚くでしょうし、テニスをもっと楽しめるようになると思いますよ。

